



週間情報



No.2825

発行日 平成28年7月5日

発行所 全国消防長会

一般財団法人全国消防協会

担当 企画部企画課 電話 03(3234)1321

消防本部の動き

訓練・演習

◆ 水難救助合同訓練を実施

藤沢市消防局では、平成28年6月6日（月）、海開きを控えた江の島周辺において、水難救助合同訓練を実施しました。

この地域には、夏の海水浴シーズンに例年200万人以上が訪れ、マリンスポーツ等における様々な水難事故の発生が予想されます。

今回の訓練は、水難事故における効率的な搜索活動、迅速・的確な救助活動体制の確立に加え、横浜市消防局航空隊との連携強化を目的として、プレジャーボートの転覆及び釣り人の落水事故を想定し、無線交信、ヘリコプターの機体誘導、救助艇とヘリコプターによる連携救出等を実施しました。

藤沢市消防局（神奈川）



【訓練の様子】

◆ 解体前の旧市立病院を使用した各種災害対応訓練を実施

坂出市消防本部（香川）

坂出市消防本部では、平成28年6月6日（月）から17日（金）のうち10日間、解体前の旧坂出市立病院を使用した各種災害対応訓練を実施しました。

火災件数等の減少やベテラン職員の大量退職による若年職員の増加に伴い、消防活動能力の維持・向上が求められています。このことから、若年職員を中心に平時では実施困難な各種訓練を実施することで、現場対応能力および指揮活動能力の向上を図ることを目的とし、エレベーター閉じ込め救助、暗所濃煙検索、中高層耐火建物火災防ぎょ、排煙等の訓練を実施しました。

実際のエレベーターを使用した訓練や煙を発生させての排煙・濃煙検索などの訓練は、現場経験の少ない若年職員にとって大変貴重な経験となりました。

今後も色々な機会を活用し、実践的な訓練を積み重ね、職員の警防技術向上に努めます。



【訓練の様子】

◆ 危険物安全週間にあわせて警防訓練を実施

西宮市消防局鳴尾消防署及び浜消防分署では、平成28年6月7日（火）、危険物安全週間にあわせ、市内の製鉄工場において、危険物に起因した大規模火災訓練を実施しました。

訓練は、消防隊、事業所自衛消防隊ともにブラインド型訓練で実施したため、実火災と同様に緊迫した訓練を実施することができました。

今後も、現場では情報を積極的に取得するように努め、必要な情報は全隊で共有し、各小隊の個別の判断ではなく、確かな情報に基づいた部隊統制を徹底していきます。

西宮市消防局（兵庫）



【訓練の様子】

◆ 3機関合同水難救助訓練を実施

渋川広域消防本部（群馬）

渋川広域消防本部では、平成28年6月13日（月）及び14日（火）、管内を流れる利根川において、群馬県警察本部渋川警察署、群馬県防災航空隊と合同で水難救助訓練を実施しました。

この訓練は、川でのレジャーなど水の事故が発生しやすい時期を迎えるにあたり、事故に対する備えと他機関との連携強化を目的に行われ、それぞれの任務を確認することができました。

今後も各種訓練を通じてさらに強固な連携を図っていきます。



【訓練の様子】

研修等

◆ 中学生も「自分で守る命」防災知識を習得

名古屋市消防局（愛知）

名古屋市消防局昭和消防署では、平成28年5月25日（水）、名古屋市立円上中学校の生徒を対象に、授業の一部として防災教室（地震時の身の保護、家具固定など）及び応急手当講習を実施しました。

大規模災害発生時、中学生もしっかりと自分の身を守り、そして、友だちや家族などお互いを助け合うことで、被害の軽減に貢献できます。今回は、三角巾や身近なもの（買い物袋やサララップ等）を使った応急手当を行いました。

青少年の時から「命の大切さ」や「災害に備えることの大切さ」の普及啓発を図り、大人になっても地域防災を支える人づくりのため、積極的に普及啓発を進めていきます。



【講習の様子】

◆ 茨城県内初「ジュニア救命士」制度を導入

水戸市消防本部では、今年度から市立小学校（３３校）の各６年生（約２,２００名）の児童を対象に、授業の一環として「命の大切さ」や「救命手法の重要性と必要性」を根付かせることを目的に、県内初となる「ジュニア救命士」制度の導入を開始いたしました。４５分間の講習を修了した児童には「ジュニア救命士」として認定し、独自の認定証が交付されます。

平成２８年６月２日（木）には、市立三の丸小学校で８３名が受講し、児童からは「ＡＥＤを使うのは勇気がいるけど、人を助けたいので頑張って行動したい。」など、将来、バイスタンダーとしての強い決意を感じることができました。

水戸市消防本部（茨城）



【講習の様子】

◆ 外部講師を招き職員研修を実施

東大阪市消防局では、平成２８年６月１６日（木）、消防局防災学習センターにおいて、「職務に対する目的意識の持ち方と職務に専念できる職場環境づくり」をテーマに研修を実施しました。

当研修では、（株）タフ・ジャパンの鎌田修広氏を講師に迎え、目的意識の重要性や職場環境づくりについて、座学と体を動かす内容を組み合わせ理解しやすく説明していただきました。

研修に参加した職員は、講師の体育・防災・道徳を融合した「災強人材育成」という考えに大きな共感を生み、終始熱気の絶えない充実した研修になりました。

今後とも職員の人材育成を積極的に行い、消防力の強化に努めてまいります。

東大阪市消防局（大阪）



【研修の様子】

◆ ドクターヘリフライトスタッフとの合同研修を実施

高野町消防本部では、平成２８年６月２２日（水）、和歌山県立医科大学附属病院のドクターヘリフライトスタッフの呼び掛けにより、合同研修会を実施しました。

はじめに、前年度中の重症救急事案を抽出し、傷病者の容態と要請基準との照合、活動フローの見直しなどをフライトドクターの医学的助言などを加えて症例検討会を行いました。続いて、救急隊とフライトスタッフがランデブーポイントで接触し、車内活動およびドクターヘリ搬入までの一連の流れを、実際の救急車を使用してシミュレーション実習を行いました。消防指令センターの職員や、フライトナース候補生らも加えた総勢２３名の参加者は、皆熱心に意見を交わしました。

この取り組みは県下でも初めてのことでしたが、この研修会が定着し各地域の消防本部でも順次開催されて、実際のドクターヘリ要請事例における現場協働の円滑化が図られること期待しています。

高野町消防本部（和歌山）



【研修の様子】

そ の 他

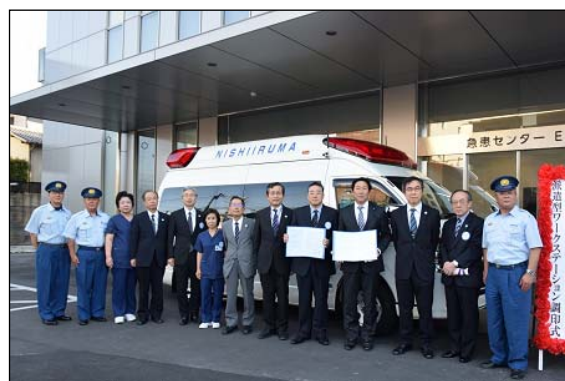
◆ 派遣型救急ワークステーション調印式を実施

西入間広域消防組合消防本部（埼玉）

西入間広域消防組合では、平成28年6月2日（木）、埼玉医科大学において、当組合管理者井上毛呂山町長と同大学丸木理事長出席のもと派遣型救急ワークステーション調印式が執り行われました。

これは、4月1日から埼玉医科大学の協力のもと、当ワークステーションを急患センターER内に開設、運用するのに伴うもので、井上町長はあいさつのなかで「医療機関と消防機関の連携強化を図り、住民の生命及び身体を守る救急医療体制の充実につながる」とワークステーションへの期待を述べました。

当組合で運用しているワークステーションは、平日の9時から16時まで急患センターERに各所属の救急隊1隊を輪番で派遣、通報内容から緊急性・重篤又は特異事案は医師が救急車に同乗、いち早く災害現場に医師が到着し高度な救急医療を開始することで救命率向上を図ります。救急出場に備え急患センターで待機している救急隊は、病院実習を行い医師から直接指導助言を受け、知識及び技術の向上に努めています。



【調印式の様子】

◆ 迅速な救命活動に対して感謝状を贈呈

衣浦東部広域連合消防局（愛知）

衣浦東部広域連合消防局では、平成28年6月21日（火）、安城消防署において、救急救護活動功労者1名及び1団体に対し消防長感謝状を贈呈しました。

この事案は、4月19日（火）、安城市大東町地内の道路上で女性が倒れているところを発見し、その場に居合わせた方の協力により、迅速な119番通報と近くの福祉施設内のAEDで早期の除細動が実施され、一命を取り留めることができたものです。

女性は、連携が功を奏し約3週間後に後遺症もなく無事退院し、社会復帰されました。



【贈呈式の様子】

◆ 消防本部の住所変更について

○ 84216 久万高原町消防本部（愛媛）

新住所 〒791-1207 上浮穴郡久万高原町下野尻甲33番地

※理由 庁舎移転のため

平成28年7月1日より運用開始

消防学校からの便り

◆ 府市初任科生合同入校式を実施

京都府立消防学校

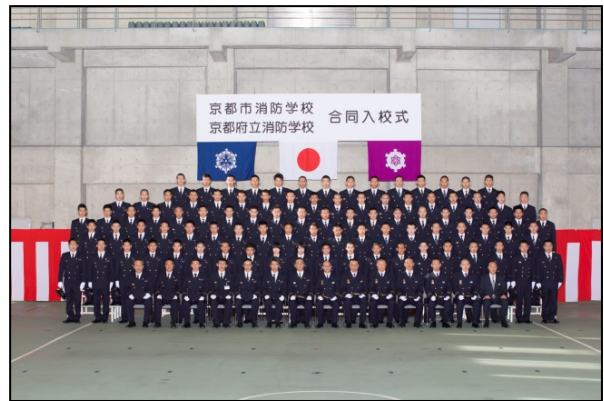
京都府立消防学校では、平成29年度から京都市消防学校と教育訓練を共同化することとしており、その試行として、平成28年4月6日（水）に、山田京都府知事、門川京都市長、二之湯参議院議員、京都府消防長会会長、京都府消防協会副会長並びに府内各消防長はじめ、多くの来賓のご臨席のもと、京都府立消防学校初任教育第43期生52名（内女性1名）と京都市消防学校第152期初任教育生42名（内女性1名）の合同入校式を京都市消防学校において挙行了しました。

今回の両校の入校生は、8月下旬まではそれぞれの消防学校で教育訓練を実施し、8月下旬から約1か月間、京都市消防学校において両校の初任教育生が合同で教育訓練を行う予定としています。

府市が一元となって教育訓練指導に当たり、相互に絆を深め、京都府民や観光客の皆様の安心・安全のために活躍できる消防人となり卒業してくれることを期待しています。



【代表者による宣誓の様子】



【入校生集合写真】

国等の動き

消防庁通知等

◆ 熱中症予防啓発コンテンツの消防庁HP掲載について（6月28日、事務連絡）

救急企画室より、各都道府県消防防災主管部（局）長あてに次のとおり事務連絡されましたのでお知らせします。

平素より救急行政の推進につきまして御尽力いただき御礼申し上げます。

消防庁では、平成20年から全国の消防本部を調査対象として熱中症による救急搬送人員数の調査を行うとともに、熱中症対策リーフレットの作成、Twitterによる注意喚起など熱中症予防の普及啓発活動の推進に取り組んでおります。しかし、全国で毎年4万人以上の方が熱中症により救急搬送されており、夏期の救急業務の円滑な推進のためには、更に熱中症予防の啓発活動に取り組んでいく必要があります。

このような現状を踏まえて、消防庁ではこれまで以上に熱中症予防の啓発を推進していくため、7月の「熱中症予防強化月間」にあわせて熱中症予防啓発コンテンツとして『予防啓発ビデオ』、『予防啓発イラスト』、『予防広報メッセージ』を作成し、消防庁HPに掲載しました。

つきましては、各都道府県消防防災主管部（局）におかれましては、熱中症予防啓発コンテンツを積極的に御活用いただくとともに、貴都道府県内市町村（消防の事務を処理する一部事務組合を含む。）や関係機関でも御利用いただけるよう御周知くださいますようお願いいたします。

（以下省略）

- 全文は、消防庁ホームページ

(http://www.fdma.go.jp/concern/law/tuchi2806/pdf/280628_jimurenraku.pdf) に掲載されています。

【問い合わせ先】

救急企画室

担当：森川専門官、勝森係長、足立事務官

◆ 消防職団員の安全管理等（熱中症対策）の再徹底について（６月２８日、消防消第１３３号 消防地第１７６号）

消防・救急課長、国民保護・防災部地域防災室長より、都道府県消防防災主管部局長あてに次のとおり通知されましたのでお知らせします。

消防職団員の安全管理等については、「消防職団員の教育訓練時における安全管理等の再徹底について」（平成２１年７月８日付け消防消第１９７号）等により徹底をお願いしていますが、夏季期間中を中心に毎年のように熱中症に起因する事故が発生している状況にあります。また、気象庁の発表によれば、今年の夏（６～８月）の平均気温は、平年並みか平年より高いとの予報があることから、より一層の対策が求められるところです。

このことから、貴職におかれましては、各消防本部、各消防学校及び各消防団に対し、熱中症対策を含めた安全管理体制及び健康管理体制について、改めて点検いただくとともに、「警防活動時等における安全管理マニュアル及び訓練時における安全管理マニュアルの一部改正について」（平成２８年３月３１日付け消防消第６３号）のほか、労働環境や運動環境の目安として、環境省が発表する「暑さ指数（WBGT）」等も参考にしながら、熱中症対策に万全を期すよう御指導願います。

なお、本通知は、消防組織法（昭和２２年法律第２２６号）第３７条の規定に基づく助言として発出するものであることを申し添えます。（以下省略）

- 全文は、消防庁ホームページ

(http://www.fdma.go.jp/concern/law/tuchi2806/pdf/280628_syou133.pdf) に掲載されています。

【問い合わせ先】

消防・救急課 職員第一係

担当：芥田、島田

国民保護・防災部 地域防災室 消防団係

担当：山下（裕）、富川

報道発表

◆ 平成２８年安全功労者内閣総理大臣表彰（消防関係）（７月１日、消防庁）

平成２８年安全功労者内閣総理大臣表彰（消防関係）受賞者は、次のとおりです。

個人４名、団体２団体

（受賞者名等は、別添（省略）の受賞者名簿に記載されています。）
（以下省略）

- 全文は、消防庁ホームページ

(http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/houdou/h28/07/280701_houdou_1.pdf) に掲載されています。

【問い合わせ先】

総務課

担当：篠宮政策評価広報官、高橋係長

※ 消防庁各課室の直通電話番号は (<http://www.fdma.go.jp/neuter/about/tel.html>) に掲載されています。

週間情報では、各本部の身近な情報を掲載していますので情報をお寄せ下さい。

週間情報への投稿は企画課へ！

TEL 03-3234-1321 FAX 03-3234-1847 E-mail : weekly@fcaj.gr.jp